

ボードゲームのすすめ3

最後に、ただ楽しむだけでなく、頭を使って楽しむゲームをご紹介します。

論理的に考えることや相手の持っている札を類推してプレイすること、相手と交渉して自分に有利に進めることが必要なゲームです。高度な技術が必要ですが、そこまで意識しなくても楽しく遊べます。

■頭をつかうゲーム

論理的に考えることや相手の持っている札を類推してプレイすること、相手と交渉して自分に有利に進めることが必要なゲームです。高度な技術が必要ですが、そこまで意識しなくても楽しく遊べます。

①ドメモ

各プレイヤーに数字が1つ書かれたタイルが5枚配られます（4人で遊ぶ場合）。自分のタイルは自分では見えないように、みんなの方に向けて立てます。自分は他のプレイヤーの数字は全て見えます。また、配ったタイルの残りの半分くらいが場でオープンされており、みんなから見えるようになっています。この状態で、自分のタイルの数字を全て当てた人が勝ちです。

タイルは数字の1～7まであり、1は1つ。2は2つ。3は3つ。・・・7は7つ。自分から見えている数字のタイル数を数えて自分が持っているような数字を類推して、順番に数字を1つずつ言います。正解ならオープンされます。他の人がどの数字を言うかで、自分の数字が何かを類推することもできます。でもちょっと待って！相手がわざと不正解を言ってあなたを罠にはめようとしているかもしれません。周りの人がニヤニヤしていたら要注意！駆け引きが楽しい数字当てゲームです。

プレイ推奨年次：中学年～高学年

プレイ人数：2人～5人

プレイ時間：10分

②コヨーテ

各プレイヤーに数字が1つ書かれているカードが配られます。自分ではカードを見ずに、おでこの前に持ち、周りのプレイヤーから見えるようにします。（カードの数字は-10～20。特殊カードもあり。）

プレイヤーは自分を含めた全プレイヤーの数字の合計を越えないように順番に数字を言っていきます。数字は前の人の数字より大きい数字しか言えません。自分から見える数字の合計と他の人が言う数字を比較して、自分のカードが何かを類推し、自分の番になったら全員の合計を越えない数字を言います。

もし、前の人と言った数字が全員の数字の合計を越えていると思ったら、「コヨーテ！」と言い、全員でカードをオープンします。前の人と言った数字が合計を越えていたら、数字を言った人のライフが1 マイナスされ、超えていなかったら「コヨーテ！」と言った人のライフが1 マイナスされます。マイナス3 となった人が負けとなります。

自分の数字が分からない中でそろそろ合計を超えるか？というスリルや、もう超えているはずなのにおかしい！と思いながらすすんでいく時の不可思議さなどが面白いゲームです。

プレイ推奨年次：高学年

プレイ人数：3人～10人

プレイ時間：15～30分

③ラブレター

カードを1枚ずつ出し合い、出したカードの効果を使って相手を脱落させて、最後の一人になることを目指します。

プレイヤーは最初に1枚持ち、山札から1枚引きます。2枚の内の1枚を場に出し、その効果に従います。カードは8種類あり、例えば以下のような効果があります。

「兵士：相手のカードを当てたら相手が脱落」 強さ1

「道化：相手のカードを見ることが出来る」 強さ2

「騎士：相手のカードと強さ比べをして負けた方が脱落」 強さ3

「将軍：相手のカードと交換する」 強さ6

「大臣：手札の強さの合計が12以上になったら脱落」 強さ7

あるプレイヤーが騎士を場に出し、手元のカードと相手のカードの強さ比べをして、相手が強さ5で負けたとします。すると、他のプレイヤーには自分のカードが強さ6以上のカードだと分かってしまいます。

また、大臣を場に出したら手元のカードは強さ4以下だと分かってしまいます。

このように場に出されたカードや負けたプレイヤーのカードから他のプレイヤーのカードを類推し、効果的なカードを使って相手を脱落させていきます。

短い時間で終わる中での深い読み合いが楽しいゲームです。

プレイ推奨年次：高学年

プレイ人数：2人～4人

プレイ時間：5～10分

④カタン （カタンの開拓者たち）

カタンは世界大会が開かれる程、世界中で大人気のボードゲームの王様です。ボードには”数字と資源が書かれた 6 角形のカード”が敷き詰められています。最初にプレイヤーはボード上の 6 角形のカードの好きな 2 箇所角に 1 つずつ開拓地駒を置きます。サイコロを振り、開拓地が接する 6 角形のカードの数字が出たら、該当する資源をもらうことができます。(1~3 つのカードに接しています) その資源を集めて街道、開拓地、都市を建設します。開拓地が 1 つ 1 点、都市が 1 つ 2 点。先に合計 10 点になった人の勝ちです。

資源には、「木材」「レンガ」「麦」「羊」「鉱石」の 5 種類があり、以下に使用します。

街道 : 「木材」「レンガ」で建設

開拓地 : 「木材」「レンガ」「麦」「羊」で建設

都市 : 「麦」×2、「鉱石」×3 で建設

基本的には、サイコロの目により資源がもらえますが、街道や開拓地を建設するのに必要な資源を全て手に入れることは中々出来ません。そこで、プレイヤー間で自由に資源の交換をする「交渉」ができます。相手のいないカードと自分が欲しいカードが合えば「交渉」成立。

サイコロ運だけでなく、「交渉」で自由に資源を獲得できるのが魅力のゲームで、ゲーム中も会話がはずみます。

また、何度も遊んでいくうちに、どのように街道や都市を配置するか、いかに自分に有利な交渉を行うか、といった戦略を考えられるようになり、どんどん好きになっていくゲームです。

プレイ推奨年次：高学年

プレイ人数：3人~4人（別売り拡張版で6人まで可能）

プレイ時間：60分